

**第 4 回草津市総合計画特別委員会における
主な意見とその対応について**

○は委員会での意見・対応
→は委員会後の意見・対応

頁	主な意見	対応
【前回の特別委員会における主な意見とその対応への意見について】		
P15 P16	ICT 教育の記載を変更いただいているが、ICT 教育は既に行われている取組であり、10 年先、20 年先を見据えた長期計画にしては視点が古い気がする。ICT 環境や情報リテラシーなどの言葉を使いながら、記載方法について検討いただきたい。	○草津市教育振興基本計画（第 3 期）でも ICT 教育の推進について触れられており、教育委員会部局と調整しながら記載方法について検討します。 → <u>現在策定中の草津市教育振興基本計画（第 3 期）の内容に合わせて修正しました。</u>
P15	意見したとおり、「地域包括ケアシステム」の注釈で高齢者を削除いただいているが、健康福祉部と調整できているか。	○記載は健康福祉部と調整しております。
P15	「地域共生社会の実現に向けて」について、共生の視点は踏まえられているが、共創の視点について触れないのか。	○「全国」の中で「地域を共に創っていく」という記載をしているが、本市としては、共創についての意思統一が図れていないため記載しておりません。
P17	「地域コミュニティの拡充に向けて」の「草津市」の中で「中間支援組織と連携し」と記載されているが、中間支援組織だけに限定して良いのか。	○「中間支援組織など」という記載に変更するなど、記載方法について検討します。 → <u>「中間支援組織をはじめ、多様な主体と連携し」に修正しました。</u>
【(1) 将来ビジョンについて】		
—	審議会等での意見として、「これからも市が発展していく」視点が示されているが、資料のどこに記載されているのか。これからも市が発展していくことが伝わらない。	○「これからのまちづくりの方向性」や「地域のつながり」の中で「発展」の視点を記載しておりますが、御意見を踏まえ、「発展」していくことがより伝わるよう記載方法について検討します。 → <u>まち（地域）のつながりの記載を一部修正しました。また、いただいた御意見を踏まえ、将来ビジョンを検討してまいります。</u>
—	「市民とともに“将来の目指すべき姿”を長期的な展望に立って検討する」と記載されているが、どの程度先の将来を想定しているのか。また、先の話ばかりで第 6 次草津市総合計画で何に取組のかが見えてこない。	○20 年、30 年先を見据えた中で、第 6 次草津市総合計画での目指すべき姿を検討したいと考えている。また、総括評価などで現在の課題や今後の方向性等を整理した上で、今回のまちづくりの方向性を示させていただいた。将来ビジョンの目指すべき方向性がまとまった後、基本計画で分野ごとに具体的な取組をお示しさせていただきたい。

頁	主な意見	対応
—	「人口の見通し」の数値は平成28年3月策定の「人口ビジョン」の数値とほぼ同値であるが、「本市の持つ強み（立地特性を最大限に生かしたまちづくりを進めてきたことにより、住みやすいまちとなり、いまなお人口が増加していることなど）に一層の磨きをかけていく」とするならば、人口増加に向けて更に取り組を進め、人口推計も更に上方修正する必要があるのではないか。	○「人口ビジョン」も「人口の見通し」も人口減少対策を進めた結果としての人口推計でございます。
—	「つながり」を重視しているようだが、引きこもりや独居老人などつながりが持てない人などへの福祉的側面が薄い印象を受ける。	○「人々のつながり」などに含有しているものと認識しているが、御意見を踏まえ、今後、基本計画などの記載にあたり、御意見の観点が抜けないよう注意いたします。
—	住みやすいまちの要因は立地特性のみか。立地特性のみであれば、駅周辺の開発のみが進む印象を受ける。	○立地特性は強みの1つを例示したものであり、その他にも教育や子育て分野などにおいても本市の持つ強みがあると考えていたが、御意見を踏まえ、記載方法について検討します。 → <u>本市の持つ強みの記載を修正しました。</u>
—	「4つの視点」について、将来の草津市が目指す姿が見えてこない。	○4つの視点から導いた将来ビジョンを次回の特別委員会でお諮りする予定でございます。
—	市民、議員、行政で草津市の目指すべき方向性に齟齬が生じないよう慎重に検討いただきたい。	○地域別会議、市民会議などでいただいた御意見を踏まえて4つの視点や、まちづくりの方向性をまとめさせていただいた。引き続き、市民や議員の皆様からの御意見を踏まえ、草津市の目指すべき方向性を検討してまいります。
—	人口増加に伴い生じた課題がある中で、人口増加そのものを強みとして記載することに違和感がある。	○御意見を踏まえ、記載方法を検討します。 → <u>本市の持つ強みの記載を修正しました。</u>
—	「地域のつながり」に生活環境の記載はあるものの、自然環境などの記載が薄い印象を受ける。	○御意見を踏まえ、記載方法を検討します。 → <u>自然環境などの視点を含めるため、「生活環境」を「環境」に変更しました。</u>
—	「時代のつながり」の中で「親から子へ、子から孫へ」と記載されているが、若者の定住もイメージしてのことか。	○次世代への継承を中心にイメージしておりましたが、御意見を踏まえ、若者の定住を目指すことも考え方に含めさせていただきます。

頁	主な意見	対応
—	定住を目指すのであれば、高校生アンケートの結果を若い世代にフィードバックする市民会議などができないか。	○現行の市民会議でも比較的若い公募委員に参加いただいておりますが、御意見を踏まえ、検討します。
—	第6次草津市総合計画では、「行財政マネジメント」は分野として組み込むのか。	○組み込む予定です。
—	2月の市長選挙の結果によっては、総合計画の方向性が大きく変わることもあり得るのか。	○基本構想の方向性は大きく変わらないだろうと考えておりますが、基本計画については、市長マニフェストの内容を反映されることも想定されるので、選挙の結果を尊重した中で対応いたします。
【(2) 将来のまちの構造について】		
P26 P28	「文化・交流ゾーン」について、文化という印象が薄い。本市唯一の工業団地があり、産業のイメージが強いため、別の名称を検討してはどうか。	○検討します。 →「丘陵・産業・交流ゾーン」に変更しました。
P26 P28	「まちのゾーン」は必要か。例えば、「文化・交流ゾーン」や「共生ゾーン」は、まちの発展について、方向性が制限されるのではないか。	○過去の総合計画においてもこの3区分でゾーン分けがなされており、総合計画において3つのゾーンを示した中で、都市計画マスタープランにおいて、細かい土地利用の方針を示していきたいと考えていますが、御意見を踏まえ、「まちのゾーン」の名称等を検討します。 →「まちのゾーン」のうち、「共生ゾーン」を「湖岸・農業・再生ゾーン」に、「文化・交流ゾーン」を「丘陵・産業・交流ゾーン」に変更しました。
P27 P28	「にぎわい拠点」「学術・交流拠点」は拠点として設定しなくても、現状そのようになっている。地域再生も重要なテーマとなっている中で、「将来のまちの構造」に市としての思いや姿勢が見えてこない。	○これまで総合計画に基づきまちづくりを進めてきた結果、今回お示ししている各拠点が形成され、これらをより生かすことでまち全体の魅力や活力を生み出すと考えております。しかしながら、御意見を踏まえ、「まち拠点」の名称等について地域再生などの視点も含めて検討します。 →「学術・交流拠点」を「学術・広域連携拠点」に変更するとともに、地域再生の視点を含めるため、「共生ゾーン」を「湖岸・農業・再生ゾーン」に変更しました。

頁	主な意見	対応
P27 P28	「学術・交流拠点」について、立命館大学が立地していることと、ICやJCTがあることは別要因であり、分けて考える必要があると考える。	○検討します。 → <u>草津 IC・JCT の周辺には、立命館大学だけでなく、福祉・医療・文化施設等が立地するなどの地域特性がありますので、1つの拠点として位置付けておりますが、それぞれの特性が活かされることで、「学術・交流拠点」の機能が最大限発揮できるものと考えております。</u>
P26 P27 P28	「文化・交流ゾーン」「学術・交流拠点」は「交流」という文言が被っているので名称を再検討いただきたい。また、「学術・交流拠点」は、地域内の交流に留まらず、国や他自治体との交流や連携する拠点にもなり得ると考えている。	○検討します。 → <u>「文化・交流ゾーン」を「丘陵・産業・交流ゾーン」に、「学術・交流拠点」を「学術・広域連携拠点」に変更しました。</u>
P27 P28	「環状軸」が地域ごとにバランスよく区切っただけに見える。烏丸半島と IC をつなぐなど、市として戦略的な軸を設定してはどうか。	○検討します。 → <u>3つの「環状軸」について、「相互に接続することにより、各まちのゾーン・拠点間を効果的に結ぶとともに、まちの資源の集積と効果的な活用を図る」との記載を追記しました。</u>
P28	「草津川跡地」について、将来の方向性を定めないのか。ただの跡地として地図内に記載されているだけでは、市としてどのように位置付けているのかが分からないので、もう少し具体的な記載が必要ではないか。	○検討します。 → <u>各まちのゾーンをつなぐ「緑軸」として位置付けました。</u>
P27 P28	第6次草津市総合計画において、湖岸レクリエーション軸は現計画と比較してどのように変わったのか。	○現計画では「くさつエコミュージアム」として、自然と触れ合い、研究・学習できる場としていたが、第6次草津市総合計画では、幅広い人々の交流を促進する軸としております。
P26 P27 P28	「湖岸レクリエーション軸」にも「共生ゾーン」にも人口増加の視点が含まれていないが、人口の地域間格差が拡大するのではないか。バランスのとれた発展という視点を重視していただきたい。	○御意見を踏まえ、「まちのゾーン」の名称等を検討します → <u>地域再生の視点を含めるため、「共生ゾーン」を「湖岸・農業・再生ゾーン」に変更しました。</u>
P26 P28	「共生ゾーン」について、地域共生社会など「共生」について様々な捉え方があり、考え方について整理いただきたい。	○検討します。 → <u>「共生ゾーン」を「湖岸・農業・再生ゾーン」に変更しました。</u>

頁	主な意見	対応
【(3) まちづくりの基本理念について】		
P29	SDG s の理念は分野ごとの取組の方向性のどこに記載されているのか。	○これまでからも SDG s の理念に沿った取組を進めており、分野ごとの取組の方向性の中に包含されている。また、基本計画の中に、SDG s の 17 の目標のいずれに紐付くか明記することを検討しております。
P29	「まちづくりの基本理念」にしては、書きぶりが具体的すぎる。理念であれば、もっと大きな考え方を記載するものではないか。「まちづくりの基本理念」の章と具体的な取組を書く章を分けてはどうか。	○検討します。 →御指摘のとおり「 <u>まちづくりの基本理念</u> 」はさらに大きな考え方を意味するものと考えられますので、「 <u>まちづくりの基本目標</u> 」に修正しました。
P29	「学校教育」について、“生きる力”という表現が古く感じる。	○検討します。 → <u>新学習指導要領や策定を進めている草津市教育振興基本計画(第3期)</u> においても“生きる力”という言葉を使用しており、原案の通りとします。
P30	「生涯学習・スポーツ」に「人生100年時代」という言葉を入れていただきたい。	○検討します。 → <u>追記しました。</u>
P30	「歴史・文化」について、活用のことについて、表現が薄いように感じる。	○検討します。 → <u>修正しました。</u>
P31	「地域福祉」について、「地域課題の解決を自ら試みる」と記載されているが、結果の方が大事ではないか。	○検討します。 → <u>修正しました。</u>
P31	「健康」について、「地域特性」とは地域資源のことなのか地域ごとの年齢構成など住民のことなのか分からない。	○検討します。 → <u>修正しました。</u>
P31	「長寿・介護」について、「認知症があっても尊厳を持ち、自分らしく暮らせる社会」とかなり踏み込んだ記載となっているが、今後の施策や計画策定などに影響は出ないか。	○現在、制定に向けて取り組んでおります「(仮称)草津市認知症があっても安心なまちづくり条例」における考え方を踏まえた上での記載をしております。
P31	「長寿・介護」について、「コミュニティ」との整合を図るために、「ボランティア活動やコミュニティ活動」としてはどうか。	○検討します。 → <u>追記しました。</u>
P32	「防災」について、災害時要援護者支援対策とは具体的に何を行っていくのか。	○今まで体験したことのない災害にも対応できるよう基本計画や個別計画の中で検討を進めていく。
P32	「コミュニティ」について、「多様なコミュニティ活動を促進」とされているが、地縁型コミュニティが脆弱化している中で、「多様な」として括らずに明記いただきたい。	○検討します。 → <u>修正しました。</u>

頁	主な意見	対応
P32	「コミュニティ」について、「従来型コミュニティ組織の役割に応じた対価」の対価が金銭であるという誤解を生じるのでは。地域ポイント制度のことであれば書きぶりを考えていただきたい。	○検討します。 → <u>修正しました。</u>
P33	「都市形成」について、地域再生の観点が弱い。	○検討します。 → <u>追記しました。</u>